



森と海の自然科

2020 年 12 月 9 日

近つ飛鳥風土記の丘・近つ飛鳥博物館（報告）

- 1: 日 時 令和2年12月3日（木）
2: 集合場所 近鉄南大阪線 喜志駅東出口 10時30分
3: 参加者 20名
4: 行 程 喜志駅～バス～＜バス停 近つ飛鳥博物館＞～近つ飛鳥風土記の丘散策～（昼食）近つ飛鳥博物館見学～風土記の丘散策再開～＜バス停＞～喜志駅（解散）

近つ飛鳥風土記の丘は一須賀古墳群として広大な群集群で1.5km四方に260基あまりの古墳が確認されている。古墳は横穴式石室を埋葬場として直径が10から20mの円墳。6世紀前から7世紀前のおよそ100年にわたって造営が続けられた。発掘調査により冠、履、冠頭太刀、耳飾り、指輪など金銀製品が見つかった。朝鮮半島からもたらされたと考えられる製品が含まれている特徴がある。被葬者の多くは渡来人であった可能性が高い。

「近つ飛鳥博物館前」でバスを降りると間もなくコンクリート造りの建物の中はいかにも殺風景。まるで朽ちはてられた様。

階段の多い山道を歩いていくと間もなく小さな古墳に出会う。それも次から次へと・・・

横穴式古墳は大きな石をまるで積み木細工の様に組み上げられている。この山の中まで大きな石をどのように運び、造られたか容易に想像できない。

「近つ飛鳥博物館」に到着。階段状の屋上で池のある景色を眺めながら昼食。

その後、最初に博物館の概要について説明を受け館内を見学。

大阪近辺の出土品、説明用モデルなど盛り沢山の資料が展示されている。櫓（そり）のような運搬具、修羅（しゅら）の大きさ、形は圧巻。

その後も古墳めぐり、途中、須恵器を焼く登り窯跡を見学。

喜志駅までバスで戻り、解散。

<感想>

ニュータウンの開発の中でこの古墳群が失われようという危機に大阪府がこの地を保存するために買収したと。途中石室の石を持ち出そうとした痕跡も見えた。大阪府は立派。今後も期待したいものです。

横穴式石室入口 中は広い



階段状の散策路

なく風土記の丘管理事務所に至る。



第1展望台で



博物館展示の一例



博物館前で